４４．≪川崎平右衛門（へいえもん）と、寛保の洪水≫

今回は、徳川吉宗政権（注１）の晩節に起こった出来事と活躍した人物を紹介します。

享保の改革のとき開拓された武蔵野新田（注２）は、凶作に見舞われ入植農民が離散するなど苦境に陥ります。その再興に、１７３９年（元文４）川崎平右衛門（注３）が、関東地方御用掛大岡忠相に武蔵野新田世話役として抜擢され、窮地を救います。

そして１７４２年（寛保２）寛保の洪水（注４）に見舞われるのです。８月３１日、隅田川が高潮により江戸の下町が浸水し、９月１日には、利根川や荒川で発生した大洪水が堤防を破り、江戸に押し寄せてきました。悪いことに、水が減衰し始めた９月６日、再び暴風が江戸を襲い、さらに湛水深が増して江東区では３m以上に達するところもありました。多摩川も大洪水となり、取水口が壊滅したほか、下流右岸が破堤します。

江戸町奉行所は、助け舟（注５）や炊き出しを行い、救助救難活動を行っています。復旧工事は、幕府直轄工事のほか、諸大名に命じて行わせる「御手伝い普請（ぶしん）」などにより対応しました。

「御手伝い普請」で、特に頑張ったのは利根川中流域を担当した長州藩で、工事の延べ人足は１００万人に及びました。（注６）１２～３年後に、木曽川の治水対策で薩摩藩が行った宝暦治水（注７）を上回る規模でした。

多摩川における直轄復旧工事で活躍したのが、川崎平右衛門です。このときの業績が認められ、出世コースにのります。１７５４年（宝暦４）美濃の代官となって水門（五六川逆水樋門）を築造します。このとき、美濃から梨を持ち帰り多摩川流域に植えるのですが、その梨の子孫から長十郎梨が見出されることになります。そして１７６２年（明和４）に石見国の銀山の代官となって経営を再建。世界遺産となった石見銀山の地元資料館では、「中興の祖」と紹介されています。最後は、勘定吟味役（ぎんみやく）まで出世しましたが、その４ヵ月後に死去。

注１：１７１６年に吉宗が征夷大将軍となって元号が享保となりますが、１７３６年から吉宗が死去するまで、元号が短期間の間に、元文（1736－41）→寛保（1741－44）→延享（1744－48）→寛延（1748－1751）と変わります。

注２：武蔵野新田とは、享保期に武蔵国の多摩郡・入間郡・新座郡・高麗郡に跨る土地を開拓したもの。

注３：川崎平衛門（生没年：1694－1767 年）は、府中市生まれの農民。1728 年（享保 13）にベトナムから来た白像が吉宗に謁見した後、その象の世話を行い、象の糞から丸薬をつくって販売した一人です。（４３．≪官位を持った象≫を参照してください）

注４：寛保の洪水では、８月２８日から近畿・中部地方において水害が発生し、８月３０日は長野県の千曲川で「戌亥（いぬい）の満水」と呼ばれる大水害となり、その翌日から関東が大規模水害に見舞われるのです。利根川では中条堤が破堤し、加えて荒川では熊谷下流で堤防が決壊し、両河川の氾濫流が江戸まで流れ込んでいます。

なお利根川東遷事業の完了（1654 年）以降、利根川が破堤して江戸（東京）まで氾濫流が押しよせたのは、少なくとも５回あります。それは、①1694 年（元禄元）：上川俣破堤、②1742 年（寛保２）：中条堤破堤、③1786 年（天明６）：中条堤と権現堂破堤、④1802 年（享和２）：権現堂破堤、⑤1846 年（弘化３）：権現堂破堤です。さらに近代に入ってからは、２回あります。それは、⑥1910 年（明治４３）：中条堤破堤、⑦1947 年（昭和２２）：栗橋破堤です。

注５：平地の水害の救難救助活動に舟を使用していることを学びたいものです。今回の鬼怒川水害でもそうですが、平地における救難救助活動はヘリコプターではなく舟が有効だと思います。つまり、自衛隊のヘリ救助を当然とすべきではなく、災害救助法に基づき茨城県が舟による救助救難活動を行うのが適当だと思います。東京が水没したときには、横田基地や羽田空港の空域制限により、ヘリの活動には制約があります。東京都は、防災用の舟の大量装備と大規模訓練を行うべきだと考えます。

注６：埼玉県久喜市にある鷲宮神社には、寛保治水碑が残され、県指定の史跡となっています。

注７：濃尾平野では、木曽川、長良川、揖斐川が網流していましたが、木曽川の治水対策として、これを３つの川に分けて水害を減らすことが考えられました。この治水計画は、享保の改革で抜擢された井沢弥惣兵衛が立案したとされています。薩摩藩は、幕命に従い、1754～5 年に三川分流工事を行います。工費が嵩み借金までして完成させますが、返済の見通しが立たず薩摩藩の工事責任者たちは自害します。この悲劇を伴った治水工事が宝暦治水です。

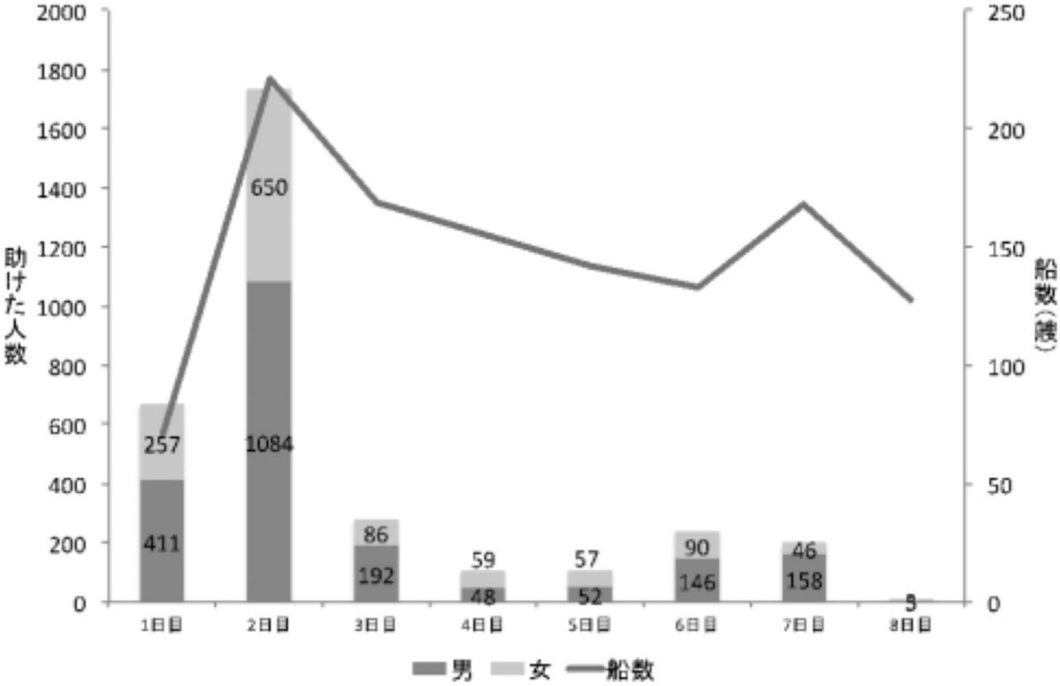
写真は、①川崎平右衛門の銅像（府中市郷土の森博物館敷地に存在：「川崎平右衛門プロジェクト」HP より」、②寛保洪水位磨崖標の位置（グーグルアースを背景に細見が作成、写真内の２つの小写真は、「水」の漢字を刻んだ磨崖標と、国道１４０号沿いの長瀞第二小学校の塀に掲げられている看板の写真で、ともに埼玉県立小川高等学校尾上由衣さんのＨＰ

に掲載されたもの)、③江戸町奉行所のお助け舟（「江戸における幕府の水害救済に関する研究」西知彦らの論文掲載図)、④寛保治水碑（Ｙａｈｏｏ地図を背景に細見が作成、小写真は鷲宮神社ＨＰ掲載の治水碑）

①

②

③



2000
1800
1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
助けた人数
250
200
150
100
50
0
船数（艘）
650
257
1084
411
86
192
59
48
57
52
90
146
46
158
3
1日目
2日目
3日目
4日目
5日目
6日目
7日目
8日目
男
女
船数

④

邑楽町
館林
館林市
大荷場
群馬県
354
館林
板倉町
板倉
千代田町
明和町
東武日光線
野木町
佐川野
上大野
古河
古河市
関戸
稲子
羽生
羽生
麦倉
羽生
羽生市
斎条
125
行田
北篠崎
加須
琴寄
栗橋
五霞町
前林
境古河
境町
幸手市
幸手
久喜市
久喜
東北道
白岡JCT
利根川
栄
新白岡
宮代町
桶川加納
桶川市
伊奈町
蓮田
吉見町
NTT DATA,RESTEC (Included(C)JAXA,(C)ZENRIN